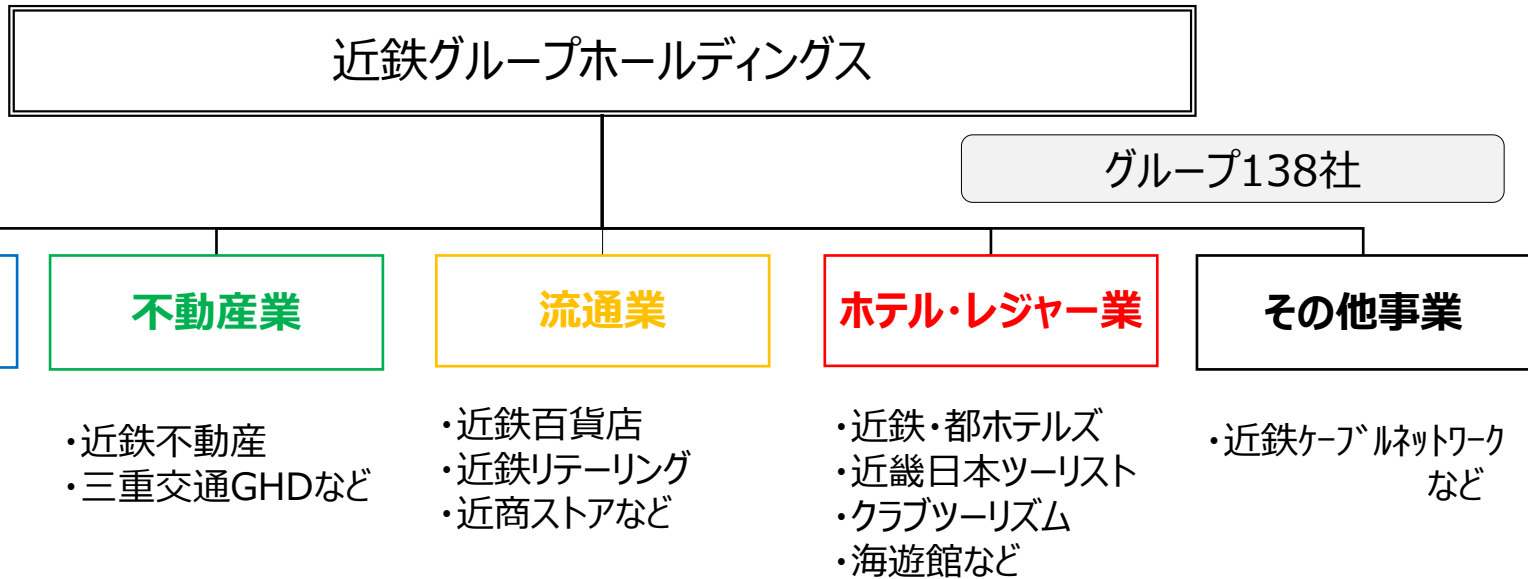


空飛ぶクルマに関する取り組みについて



2022年3月18日
近鉄グループホールディングス株式会社

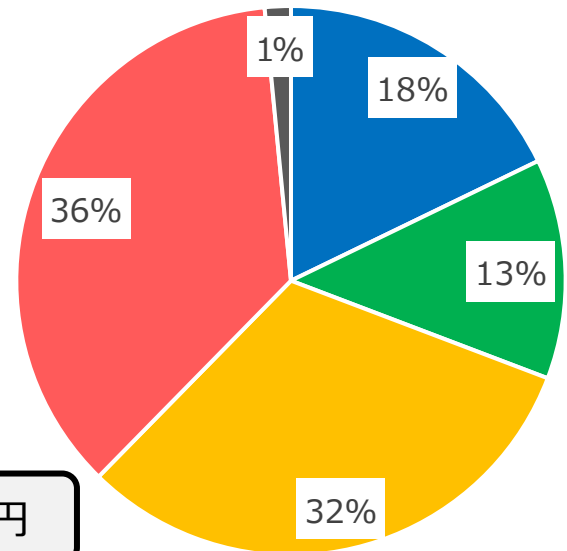


会社概要

設立	1944年6月 (前身の奈良軌道は1910年9月)
所在地	大阪市天王寺区 上本町6丁目1番55号
資本金	126,476百万円
グループ会社	138社 (2021.3末)

営業収益 (FY2019)

1兆1,942億円



空飛ぶクルマによって目指す社会

- ・「空の移動」実現による交流人口の創出や、沿線エリアの価値向上、観光面での魅力向上など新しい価値創出への期待から、他企業との協業などを通じて、空飛ぶクルマ事業への参画を検討中。
- ・鉄道をはじめとする交通事業、住居や商業施設などまちづくり事業、ホテル・レジャー施設など観光事業等で培った知見を活かして、空飛ぶクルマ社会実現に貢献したい。

移動の利便性向上

既存交通との結節点を担い、シームレスで便利な移動を実現し、交流人口の創出



観光面での魅力向上

観光・レジャー用途での活用により観光地の魅力向上



空飛ぶクルマのあるまちづくり

離発着場を核としたまちづくりにより、エリア全体の魅力・価値向上



万博を契機とした空飛ぶクルマのサービスの実現

- ・大阪ベイエリアの天保山地区においては、近鉄グループとして世界最大級の水族館「海遊館」を運営しており、万博が開催される夢洲へは、大阪メトロ中央線の延伸により当社の車両も直接乗り入れることになる。
- ・空のルート整備として、万博期間中に、夢洲と天保山やUSJとを結ぶ2地点間輸送や、大阪ベイエリアの遊覧航行などのサービス提供を検討し、相互誘客によりにぎわい創り・エリア活性化への貢献を図りたい。



2025年万博開催
目標来場者数2,820万人

至 奈良方面
(近鉄けいはんな線)

大阪メトロ中央線延伸

- 空飛ぶクルマの機体の開発状況・性能および運航制度の整備や規制の状況を踏まえて最適な事業計画を検討。
- 万博にあわせた事業開始以降、市場拡大・サービス普及の動向を踏まえて、空港アクセスや都市部のルートなど、より広範囲でのサービス実装を目指す。

運航コース・ポート候補地

天保山～USJ・夢洲

夢洲～関西空港・神戸空港

伊勢志摩エリア～セントレア空港

社会受容の獲得

都市部の既存ビル屋上や
新設のエアターミナル～都市内外
(交通結節点からの都市輸送)

市場動向

有人機

飛行頻度
・利用率向上

無人機
自律飛行

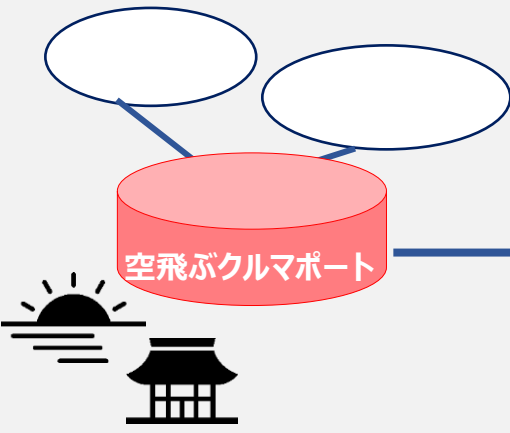
運営コスト低下
・価格低下

サービス普及が価格低下につながり、
空飛ぶクルマがより身近なものへ

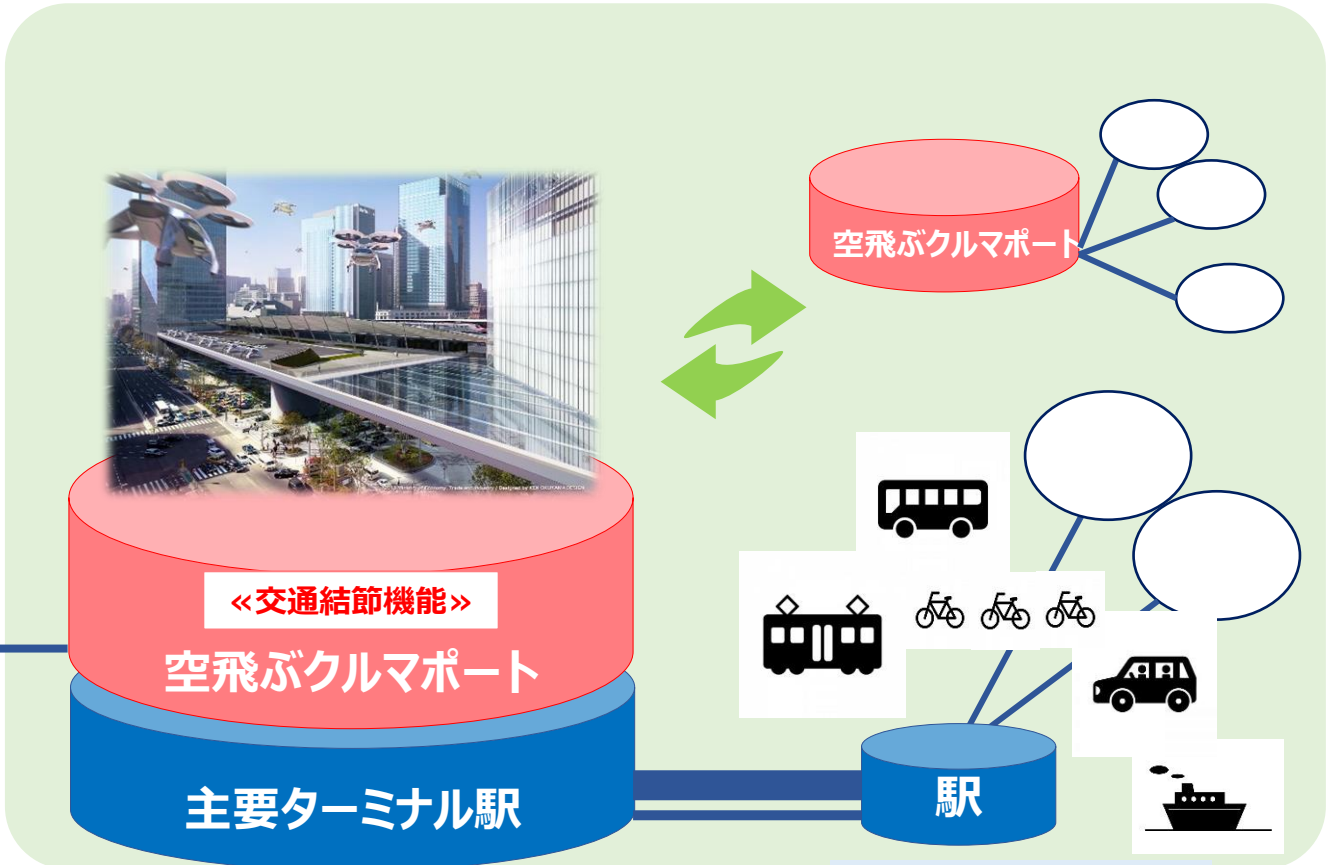
空飛ぶクルマによる交通結節機能の拡充

- 空飛ぶクルマを交通モードとして利便性を高めるためには、他の交通との結節が重要であり、ターミナル駅などの一次交通の拠点を持ち、様々な二次交通を運営する当社が果たす役割は小さくないと考えている。
- 既存交通拠点からの二次交通として空飛ぶクルマを活用し、ネットワーク拡大やまちづくりへの価値提供、地域における交流人口の創出を目指す。観光面でも、遊覧飛行により三次元的な視点による付加価値のある観光体験の提供を図る。

観光地での活用



都市間交通



都市内交通

二次交通との結節

出典：経済産業省、三重県

ポートを核にしたまちづくりのイメージ

都市部や地方部それぞれにおいて、鉄道駅周辺などで空飛ぶクルマのポートを設置することが、エリアの魅力向上ひいては地域の持続的な発展につながると捉え、沿線各地へのポート展開を検討したい。

ターミナル駅

中間駅

観光地駅

都市部

ポート
イメージ



地方部



波及
効果

- ビルや商業施設へのポート設置による、エリア全体のバリューアップ

- 移動手段の多様化・強化によるまちの価値向上

- 遊覧・周遊飛行サービスによる新しい観光価値の創出



ラウンジイメージ